

---

# 秘められた真実

澄空

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

秘められた真実

### 【Nコード】

N3342G

### 【作者名】

澄空

### 【あらすじ】

ファラルシア・タウニー国の、ファラルシア城とその城下町は、ある呪いで植物も動物も人間も全て石化していた。しかしその呪いから助かった王女セキア・ティ・ファルシアは呪いを解こうと旅に出る。道中立ち寄った国で出会った青年に意味不明な理由で付き纏われ、自分の旅にまでついてくることに。旅が、今、始まる。

## FILE 1：強引な旅立ち

静かな森で、二人の人間が倒れていた。

「……っは、……はぁ……。ど……。うです、か、師匠……ッ！」

あがった息を整えながら、一人が上体を起こした。どうやらまだ少女のようだ。師匠と呼ばれた人間は、年老いた女性だった。

「はー……。はー……。げほっ。ごほごほッ！……。はぁ……」

老女の呼吸は回復することなく、咳き込んでしまう。慌てて、少女は駆け寄った。

「だっ、大丈夫ですか!？」

「はー……。はー……。わ、私も齢なので……」

苦笑いを浮かべながら、老女は言う。しかし、師の身体を不安に思っていた少女の表情が、笑顔に一変した。

「……あ、あたし勝ちました！ 師匠に勝ちましたよ！」

思わずガッツポーズをする少女。反対に、老女の方はぎくりと冷や汗をかく。

「そ、そうですね……。でもまだ……」

「ということは！ 約束でしたよね！ あたし、早速旅に出る支度をしてきますね！ よーしっ」

「それでは、行って参りますね！ ソフィー師匠！」

ソフィーと呼ばれた老女が引きとめようと小屋へ走り込むと、すでに荷物を持って少女は玄関に立っていた。

「もう用意したのですか!？」

少女 セキアは師を驚かせたことに満足なのか、終始笑顔だった。

「ふふふっ。実はしてあったのです。・・・ということで、今まで有難うございました！ 行ってきますッ」

ソフィーの横をするりと通って、玄関から飛び出した。あまりに素早いこうどうだったので、しばらくソフィーは呆気に取られてしまった。

しかし、我に返ると慌てに慌てる。

「ま、待ちなさい!・・・なんてこと・・・! あの子にはまだ闘い方をすべて教えたわけではないのに・・・。ごほっ・・・。っこうしてはいられないわ」

そうひとりごちたあと、小屋の中へ入り、急いで電話をかけた。

「・・・あ、もしもしっ!? 私よ、ソフィー。・・・ええ、ええ、  
そうなの。」  
を出してもらえる?」

ファラルシア・タウニー国の、ファラルシア城とその城下町は、  
ある呪いで現在石化していた。草花も動物も、人々も。  
しかし、その呪いから、たった一人だけ護られた者がいた。

ファラルシア・タウニー国の王女、セキア・ティ・ファラルシア。

伝説では、自分の持っている魔石“ブルーティアー”を辺境の地  
にある“精霊の泉”へ捧げれば、呪いは解かれると云う。

国が動かなくなってから十年経った今、成長し、一人で生きてい  
く術を身につけたセキアは、国を救おうと師の下を發った。

旅が、今、始まる。

## FILE 2：初めての街

師であるソフィーの許を発ったセキア。  
鼻唄混じりに歩き、近くの街まで来ていた。

「ここがパータンの街かあ。近くって言っても、まだここには来たことなかったんだよね……。よし！ 街の中を探索しちゃおうっ」

ここパータンの街はこの辺りで一番大きな街で、物流が盛んだ。食べ物から衣服などの商店だけでなく、道のあちこちで露店が開かれ、採れたて新鮮な野菜や果物、加工されたアクセサリーなどが売られている。

このため人が集まる街なので、裏道や夜は治安が少々悪くなる。

「あつ、宿屋発見！！ ゆっくり見物したいし……。今日はここで泊まっちゃうかな」

ということで見つけた宿屋で部屋を取り、荷物を軽くして街へ繰り出た。

「はあ、街っておっきいなあ。人いっぱいだし、美味しいもの

たくさんあるし！」

時刻はすでに夕方。

街の中を見て回ってセキアは満足していた。

そして露店はせかせかと片づけを行っている。

「おなか・・・へった、なあ。どこかに食堂ないかなあ・・・」

セキアはきよろきよろと辺りを見渡す。

暗くなってきたので、ぼつぼつと街灯が灯り始める。

そして、セキアの目の前には一軒のちよつとぼろくさい店。

「今日いろいろお金使っちゃったし・・・安く済ませよう」

ということとで店決定。

ドアを開けるとカランカランと鈴が鳴り、店員に客が来たことを知らせる。

店の中は煙草の煙で充満していて、あちこちのテーブルで客がカードで賭博をしている。

「うわあ・・・」

まずいところに入っちゃったかなと、内心びくびくするセキアだが、入ってしまったものは仕方ない。

カウンター席まで行って、お金を机の上に出し、女将らしい太ったおばちゃんに相応の食事を頼んだ。

「あんたよくこんなトコ入ってきたわねえ・・・。ここら辺の人じゃないでしょ」

「はあ……。旅をしています」

周りの視線に気を取られ、女将の問いに気のない返事をする。物珍しげに見る客の視線が痛かった。

「一人でかい？ どこからきたのさ？」

「うーんと……。ここからすぐの、ロマヴの村らへんから……」

正確に言うと、ロマヴの村周辺の森にある小屋から、だが。

ソフィー師はあまり人と関わりたくないらしいので、ぼかしておいた。

「へえ、そう……」

「????」

ふいに女将の声のトーンが落ちたのでセキアは気になったが、ちょうど食事を出されたので食べることにした。

食べている間、女将は奥へ引っ込んでしまった。

「よお、お嬢ちゃんなんでこんなお店に来ちゃったのかな？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3342g/>

---

秘められた真実

2010年10月9日02時35分発行